



出演者一同勢ぞろい 圧巻でした

第49回ドクターズ・ファミリーコンサート

声楽陣、新たに二人参加

ベテラン組みも元気に連続出場

22年11月17日(日)、昨年に引き続き東京・神楽坂の「音楽の友ホール」で、ドクターズ・ファミリーコンサートを開きました。番組数は12。うち声楽に新人二人が参加、また岩崎先生らが連続出場を果たされました。これまで出演時間の違いから、なかなか全員がそろった写真(上)はなかったのですが今回実現しました。伴奏者も含め豪華な陣容です。数々の名曲を中心に多彩な番組が続き、最後までお客さまと一緒に、仲間の演奏を楽しみました(太字は会員)。

プログラムに先だって、洋で「行きたい」と開会のご挨拶。さっそく「みんなで歌おう」から始まりました。

「医療に従事する多忙な時間の中で、趣味の音楽に打ち込み、これからもともに楽しん

①1番「みんなで歌おう」

歌唱指導を萩野昭三先生から刑部美也子さんに引き継がれてから、もう何年になるのでしょうか。

今回はオードウェイ

作曲の「旅愁」(原曲

は *Dreaming of Home*



ご挨拶する松木委員

写真④ 開幕直前に撮影しました。連絡の手違いから萩野仁志先生が外出中で不在です。

and Mother: (家と母を夢見て)です。訳詞は大童球溪(いんどう・きゆうけい)。奇麗な日本語のせいもあって、100年も前から歌い継がれてきた曲です。会場の皆さんも、砂井馨さんのピアノ伴奏で



② メゾソプラノ独唱 加茂 和子

声高らかに「ふけゆく秋の夜」と合唱しました。

②メゾソプラノ独唱 加茂 和子

ピアノ伴奏 原田 園美

「貴女が私に死の栄光を」

スカラルッティ オペラ「十人委員

会の凋落」から

「アヴェ・マリア」 カッチーニ

加茂先生はさいたま市浦和区で40年近く耳鼻咽喉科を開業しています。「たくさんのお患者さんに信頼され、音楽家ではなく医師になって本当によかった」と満足されています。若い頃から趣味で歌っており、30年ほど前にはクラブの会員でしたが、そのときはステージに立つことはありませんでした。今回再入会され初出演です。なお、加茂先生は医学生時代、菊地鏖二先生に教わったそうです。

③バイオリン独奏 中村 雄彦

ピアノ伴奏 豊嶋 玲子

「バイオリン協奏曲第2番ト長調」より第1楽章 ハイドン

中村先生は上越市で皮膚科医院を開いており、東京在住で歯科医をされている



③バイオリン独奏 中村 雄彦
ピアノ伴奏 豊嶋 玲子

お嬢さんも会員で、高校生の頃から、このコンサートに出場し続けています。新潟県医師会報に寄せられた一文によりますと、「これまでバッハ、ヘンデル、ベートーベンの協奏曲やソナタを弾きハイドンには手を出さなかった。彼の一番有名な第2番の楽譜をしてみると、活気ある軽快なリズムで隅から隅まで典雅

そのもの、弾いていると王侯の気分になる」と述べております。



④ソプラノ独唱 青木 明子

④ソプラノ独唱 青木 明子

ピアノ伴奏 要 浩子

「あなたの優しい声が」 ベッリーニ

オペラ「清教徒」から

「今の歌声は」 ロッシーニ

オペラ「セビリアの理髪師」から

青木さんのご主人宏明先生は内科医で

す。今回は、同じ先生について声楽を勉強されている大坪公子先生の紹介で初出場です。最初の曲は悲しい恋心、2番目は恋心を明るく……対照的な女心の微妙さを歌いました。

⑤テノール独唱 浅野 尚

ピアノ伴奏 西島 麻子



「くちなし」 作詞 高野喜久雄

作曲 高田 三郎

「母」 作詞 竹久 夢二

作曲 小松 耕輔

「冬」 アカンポーラ

浅野先生は香取市で耳鼻咽喉科を開業

この会には西島さんとのコンビで常連です。毎年、日本の曲を入れていますが、今回のテーマは「家族」でしょうか。父を偲んだ「くちなし」のほか、故郷で待っているであろう「母」、そして三天テノールのホセ・カレーラスが愛唱する「冬」を入れました。

⑥クラシックギター独奏 岩崎 哲

「ギター組曲ホ短調ブルー」 バツハ

「二つのギター」 ロシア民謡

岩崎先生の連続出場は半世紀になります。数々の名曲を披露されましたが、今



回はバツハの時代に宮廷で開かれた舞踏会に使われていた拍子の速い曲です。



⑦女声コーラス 元コーロアキの皆さん

⑦女声コーラス 元コーロアキ

ソプラノ 広瀬珠恵・宮崎洋子・田代久子
アルト 砂井馨・矢部泰子・小川昭子

ピアノ伴奏 刑部美也子

「まちぼうけ」 作詞 北原 白秋

作曲 山田 耕筈

「円舞曲」 ブラームス

ビショップ

おなじみの曲ばかりです。一緒に口の中で歌い、メロディーをなぞりました。

それだけにコーラスの楽しさを堪能できました。病児保育で忙しい小川先生のリフレッシュには欠かせない合唱。いつも友情出演で支えてくださる刑部さんら皆さんに感謝いたします。

⑧ソプラノ独唱 大坪 公子

ピアノ伴奏 要 浩子

「母もなしに」 プッチーニ

オペラ「修道女アンジェリカ」から

「楽しい思い出はどこに」 モーツァルト

オペラ「フィガロの結婚」から

世田谷区内で病院長として活躍されている大坪先生。その多忙な中で、オペラの名曲を2曲。まず、わが子と引き裂か

れ修道院に入る母の悲しみと、一転して浮気な伯爵である夫をたしなめ、反省したことに温かく許して家庭を回復する賢い夫人を歌い分けました。なお先生はその2週間後に地元のホテルでリサイタルを開かれました。



⑧ソプラノ独唱 大坪 公子

⑨バリトン&ソプラノ二重唱

菊地 瞭二 辻村 倫子

ピアノ伴奏 長谷川由希

「ヴィオレッタとジェルモンの二重唱」

ヴェルディ 「椿姫」第2幕から

昨年は所用で断念された菊地先生、当初は昨年の曲を用意されたのですが、急

きよ変更、椿姫に息子との別れを迫る父親役を演じました。お相手の辻村さん、ピアノの長谷川さんとも息ぴったりでした。



⑨バリトン\$ソプラノ独唱 菊地 鏡二 (6)

⑩ソプラノ独唱
ピアノ伴奏

松木 耀子
平野 義子

「さくら横丁」
作詞 加藤 周一

作曲 別宮 貞雄

「アドリアーナ・ルクブルール」チレア
第一幕から「私は芸術の下僕」
小平市で眼科医院を開いている松木先生は心から歌が大好きな先生。洋楽部をひっぱって来られた諸先生が亡くなられ



⑩ソプラノ独唱 松木 耀子

た後、小川先生と懸命にこのコンサートを支えておられます。

初めに、医師で文学者の加藤周一氏の詞、過ぎ去った恋を思い出すという「さくら横丁」。大人の感傷をさらりとうたいました。

⑪ピアノ独奏
萩野 仁志

「展覧会の絵」から ムソルグスキー

萩野先生は町田市で、故昭三先生と同じ耳鼻咽喉科を開業されています。これまでも時折、出場していました。昭三先生が亡くなられて今回はその追悼演奏と



⑨ピアノ独奏 萩野 仁志

もいえるもので、白鍵に触れる前にマイクを手に挨拶されました。曲自体が、ムソルグスキーが友人の遺作展で見た10枚の絵の印象を音楽に仕立てたもので、いわば鎮魂曲でもあり、父へ捧げる曲で



⑫マンドリン・アンサンブル

した。難曲ですが全曲演奏をめざしておられるだけあって、聴衆に深い感銘を与えました。

⑫マンドリン・アンサンブル

第1マンドリン 亀岡 智子

第2マンドリン 木内 徹子

マンドラ 笹 美智子

ギター 高橋 妙子

キーボード 中山 真理

「アヴェ・マリア」 カッチーニ

「クリスマスは家で過ごそう」

「We Need a Little Christmas」

ミュージカル「メイム」から、学生時代の仲間がアンサンブルを再結成してから33年目です。笹先生のお嬢さん中山さんの後押しで、映画音楽集や世界の名曲を披露してきました。今回はクリスマス特集。2番目の曲は先の世界大戦中、ビングクロスビーが戦場の若い兵士の胸のうちを歌ってヒットしました。先生方は12月にTホテルで33周年記念コンサート

トを開きました。数々の曲をこなし、これからも活躍を期待されます。



閉会のご挨拶は小川先生。最後までお聴きくださった皆さまと、来年も楽しい音楽会で、元気に再会できることを願って閉会しました。

今秋は中野ゼロホールで

中野区の施設です。JR中央線(総武線・営団地下鉄東西線) 駅南口、徒歩8分ほど。中野サンプラザの反対側。大小2つのうち小ホール、それでも客席は500以上あります。ステージも十分でオーケストラが復活できるといいですね。9月19日(月)敬老の旦 午後の部。これまでの半分、リハーサルなど進行が難しそうです。